

宮崎県の特別支援教育の現状

宮 崎 県 特 別 支 援 教 育 研 究 連 合
知 的 障 が い 教 育 研 究 部 会
会 長 仲 家 孝

1 はじめに

宮崎県特別支援教育研究連合は、宮崎県小・中学校特別支援教育研究会と宮崎県特別支援学校教育研究会の連合体である。知的障がい教育研究部会は、宮崎県特別支援教育研究連合の障がい種別教育研究部会として位置づけられており、小・中学校知的障がい特別支援学級と知的障がい特別支援学校の教職員から構成されている。

2 特別支援学校等の設置状況

令和4年度の特別支援学校及び特別支援学級設置学校等の状況は、下表のとおりである。

(1) 特別支援学級の概要

知 的 障 が い						自 閉 症 ・ 情 緒 障 が い					
小学校		中学校		総計		小学校		中学校		総計	
学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数
173	636	92	258	265	894	329	1783	137	637	466	2420
+1	+38	+5	+12	+6	+50	+20	+130	+13	+51	+30	+181

(2) 通級指導教室の概要（高等学校は含まない。）

障がい種	設置教室数（昨年との差）	児童生徒数（昨年との差）
弱 視	0（±0）	0（±0）
難 聴	0（±0）	15（+2）
言語障がい	27（+2）	397（+6）
情緒障がい	21（±0）	336（+22）
LD・ADHD	65（+6）	999（+152）
計	116（+8）	1747（+182）

※ 難聴は特別支援学校 2教室（8人）を含む。

※（ ）内、前年度比

(3) 特別支援学校の概要

障がい種別	学 部 別 学 級 数 及 び 児 童 生 徒 数										計 (人数)
	幼 稚 部		小 学 部		中 学 部		高 等 部		専 攻 科		
	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	
視覚障がい	視覚支援学校（１校）（－ ２）										２２
聴覚障がい	聴覚支援学校（１校）（＋ ２）										３８
知肢併置	知肢併置支援学校（７校＜分校１校含む＞）３（＋１７）										８４７
聴知肢併置	聴知肢併置支援学校（１校）（－ １３）										１８６
肢体不自由	肢体不自由支援学校（１校）（－ １１）										８１
知的障がい	知的障がい支援学校（１校）（－ ７）										２０８
病 弱	病弱支援学校（１校）（－ ２）										２１
合 計	7 (±0)	13 (+1)	167 (－1)	505 (+9)	115 (－1)	359 (－2)	131 (+1)	519 (－23)	6 (+1)	7 (－1)	1403 (人)
											426 (学級)

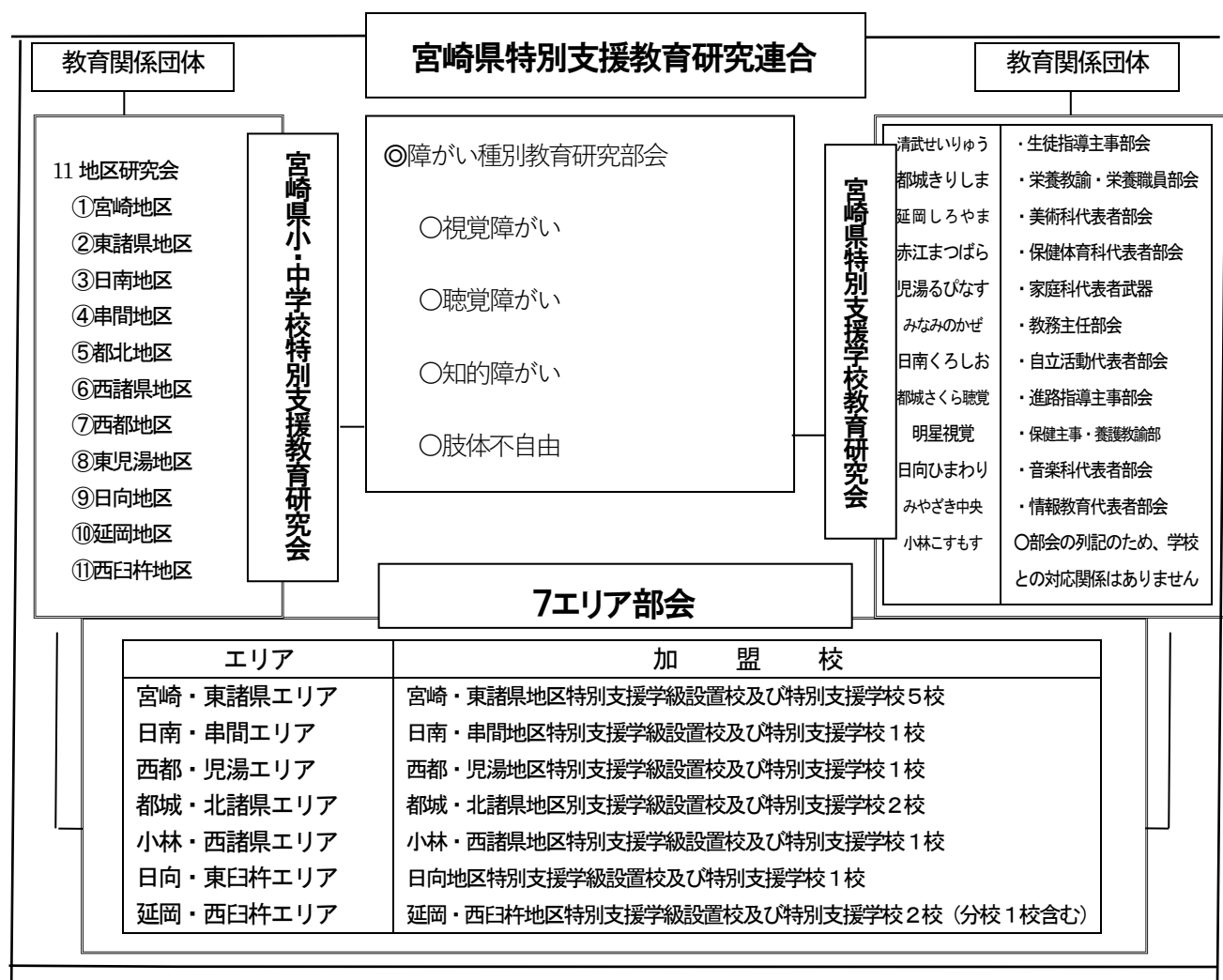
学級（±0）児童生徒数（－16）

3 県教育委員会の令和4年度の主な事業

○ 特別支援学校医療的ケア実施事業 ○ 県立高等学校生活支援充実事業 ○ 高校から広がる共生社会推進事業
○ みやざきの発達障がい教育推進事業 ○ 未来を拓く！特別支援学校「自立と社会参加」推進事業

4 宮崎県特別支援教育研究連合の活動状況

(1) 組織



関係機関との連携	宮崎県特別支援教育研究連合	九州地区各障害種別研究会	全国各障害種別研究会
	視覚障がい教育研究部会	九州地区盲学校教育研究会	全日本盲学校教育研究会
	聴覚障がい教育研究部会	九州地区聴覚障害教育研究会	全日本聾教育研究会
	難聴・言語障がい教育研究部会	九州地区難聴・言語教育研究会	全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会
	知的障がい教育研究部会	九州地区特別支援教育研究連盟	全日本特別支援教育研究連盟
	肢体不自由教育研究部会	九州地区肢体不自由教育研究会	全国肢体不自由教育研究会
	病弱教育研究部会	九州地区病弱虚弱教育研究会	全国病弱虚弱教育研究会
	情緒障がい教育研究部会	九州地区情緒障害教育研究会	全国情緒障害教育研究会

(2) 事業方針

- ① 障がいの重度・重複化、多様化に対応した指導内容、方法の研究（障がい種や指導体制を越えた連携等）
- ② 組織と役割分担の確立（組織・活動内容の整備）
- ③ 情報交換の活性化（研究部会の連絡調整機構の整備及び情報交換と連携など）
- ④ 研究部会の現状と活動内容の把握（研究部会と全国及び九州組織との位置づけについての整備など）
- ⑤ 関係団体との連携（事業連携など）
- ⑥ 令和4年度宮崎県特別支援教育連合知的障がい教育研究部会研究大会都城大会（7月29日）
パネルディスカッション（オンライン・オンデマンド）
- ⑦ ホームページ作成、会誌の発行

5 その他の課題

- リモート化やデータのやりとりが主となり業務のスマート化が進む一方で、周知・拡散の徹底が課題である。